

アイリス Letter

保護者の皆様へ

2021年11月30日発行
第7号
広島女学院中学高等学校



聖書のことば

ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

ルカによる福音書 2章6・7節

2学期も12月のみとなります。コロナ禍ではありますが、今年度は、落ち着いた状況の中で、クリスマスの行事に取り組むことができます。17日の終業の日の夜、保護者の方にも参加していただける、女学院クリスマスを実施します。その礼拝ではカトリック宇部教会主任司祭の片柳弘史神父からメッセージをいただきます。片柳先生は、マザー・テレサと共にボランティア活動に従事されたご経験をお持ちの方です。ご著書の「ぬくもりの記憶」から一部を紹介します。

『カルカッタにある、マザー・テレサが創立した修道会「神の愛の宣教者会」の本部修道院には、毎年この時期になるとご降誕の飾りが作られる。ある朝、マザーはボランティアたちをその周りに集め、飾りの中央に置かれた空の飼い葉桶を指差しながら次のように話した。「これからクリスマスが来るまでに、イエスさまのためにできる限りの犠牲を捧げなさい。そして犠牲を捧げるたびにここに来て、飼い葉桶の中にわらを一本入れなさい。」

……略……クリスマス・ミサの直前、マザーはわたしたちを再び集めて言った。「ここに入っているわらの一本一本は、皆さんの愛です。犠牲を捧げるたび、皆さんの心にも愛のわらが一本ずつ入れられました。今、この飼い葉桶だけでなく、皆さんの心にもわらがふかふかに敷き詰められているはずです。さあ、イエスさまをお迎えしましょう。』

キリスト教強調週間の講師 奥田知志先生は、「コロナ禍の生活では、何をしてはいけな
いかということを考えてじっとしているのではなく、何をやらなくてはいけな
いか、何を後回しにしてはいけな
いかということを考えて動くことが大切である。」と教えてくださいました。

長いコロナ禍の生活の中で、普段は当たり前的事として、喜びや感謝を思うことなくやっていたことが、実はとても大切なことであることを知りました。

家庭や学校生活で大切であると思うこと、大変だと思うことに動き、わらを一本でも多く敷き詰めたクリスマスを迎えたいと思います。

(校長)



キリスト教強調週間 (11/15～20)

主題「無くてならぬもの～コロナが教えてくれたこと～」、
主題聖句「神はお造りになったすべてのものをご覧になった。
見よ、それは極めて良かった。」(創世記1章31節)のもと、
16日は通常の授業に替えて、主題講演と学年ごとの特別プログラムが実施されました。



主題講演講師の奥田知志先生(日本バプテスト連盟東八幡キリスト教会牧師)は、北九州市でこれまでに3600人(2021年3月)以上のホームレスの人々を自立に導いたNPO法人抱樸代表で、NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」Eテレ「こころの時代」などに出演。

「もう一人にさせない」(いのちのこぼ社)、「助けてと言える国へ」(茂木健一郎氏共著・集英社新書)、「いつか笑える日が来る」(いのちのこぼ社)、「ユダよ、帰れーコロナの時代に聖書を読む」(新教出版)など著書多数。ホームレス支援だけでなく、生活困窮者や社会や家庭に居場所のない若者や子どもたちのサポートなど、その活動は多岐にわたっておられます。

講演では、「コロナ禍で私たちがもう一度再確認させられた『無くてはならぬもの』は“命”。



でも当たり前のように、現実には“意味のある命”と“意味のない命”があるかのような社会になっている。聖書では神が世界を創造された時、すべてのものを良しとされたのである。それは、『命そのものにまず意味がある』という宣言だ」と話されました。

昼食後の講師を囲む会には、高校チャペルいっばいに中高生が集まり、次々と熱心な質問が出ました。「なぜ神様はすべてを良しとされたのですか?」という質問に対して、

「なぜと問わなくてもいいこともあるのではないかと。愛することに理由はいらない」と答えられ、「無条件に愛された命を持つわたしであり、あなたであること」、その聖書のメッセージが先生の活動の根っこにあるのだと思われました。

学年別活動では、「隣人と共に生きる」というテーマで、社会のさまざまな分野の講師の先生との出会いや具体的実践活動を通して考える時間を持ちました。

週間中の生徒の委員会企画では、先生たちへのインタビューを昼食時間に放送で流したり、YWCA部によるハンドベルミニコン



サートや礼拝委員による〇×クイズ大会(賞品付き)などで盛り上がりしました。

20日(土)の閉会礼拝では、各学年から2名ずつ感想を発表し、それぞれが得たものを分かち合いました。詳細は学院報や年度末発行の小冊子『ガラヤの風』にてご報告します。

(宗教教育委員会)

大学模擬講義・講演会

11月の面接週間の放課後に模擬講義や講演会を行いました。

①叡啓大学

保井俊之先生（ソーシャルシステムデザイン学部 学部長）による講義。演題は、「できる」から「創る」へ（22世紀をグローバルに生き抜く君たちへ）でした。

②東京国際大学

Lucas Edmond 先生によるハワイに関する内容を英語での講義。

③医学部講演会

医学科志望者を対象に富士学院統括本部長による最新の医学科入試の情報や面接対策などについて。さらに、高3生徒の医学科志望者に個別面接練習もして頂きました。
(進路指導部)



中学讃美歌コンクール開催のお知らせ

12月15日(水)、ゲーンズホールで、中学讃美歌コンクールが開催されます。この時期、生徒たちの一生懸命練習する歌声が学校中に流れ、クリスマスを迎える女学院の風物詩となっています。

なお、今年度は感染予防の視点から密を避けるため、保護者の参観（例年も中3のみ）は一切ご遠慮いただいております。ご理解いただきますようお願いいたします。合唱も公的な基準に従い、十分な間隔を取った上、マスク着用で行う予定です。

(宗教教育委員会)

女学院クリスマスのお知らせ

12月17日(金)午後6時～7時(5時30分開場)、ゲーンズホールにおいて女学院クリスマスを行います。今年度は無制限の一般公開は控えておりますが、在校生、ご家族、卒業生などがご参加いただける礼拝です。共にクリスマスをお祝いしましょう。

片柳弘史神父（宇部カトリック教会）がマザー・テレサとの出会いを通して与えられたことについて語ってくださいます。中学YWCA部（ハンドベル）、高校YWCA部・高校宗教委員有志（司会・聖書朗読）などの生徒の皆さんが協力して下さいます。

なお、入場は無料ですが、会場で席上献金（NGO・社会福祉団体などへの寄付）のご協力をお願いしています。



終了が下校時間を過ぎることをご了解の上、中学生が参加する場合は、必ず保護者同伴か、お迎えをお願いします。

(宗教教育委員会)

クリスマス献金のお願い

キリスト教の教会では、礼拝の中で神様への感謝のしるしとして献金を捧げます。女学院でも、毎年2学期末のクリスマス礼拝で「クリスマス献金」を捧げ、この1年間の恵みを感謝し、その恵みを“隣人”と分かち合うために、NGOや福祉施設などにお送りしています。

2学期末に詳細を記したプリントを配布し、礼拝委員（中学）、宗教委員（高校）が各HRで呼びかけます。コロナ禍でいっそう厳しい状況に置かれている人々をおぼえ、支え合って共に生きるために、趣旨をご理解の上、保護者の皆様にもご協力いただければ幸いです。

（宗教教育委員会）

保健室だより（7）

いよいよ冬がやってきました。風邪症状が増える季節ですね。寒さは免疫力を低下させ、感染症にかかりやすくします。新型コロナウイルス感染症はまだまだ続いていますので、朝の検温・健康チェック、マスク着用、手洗い・消毒、換気などの対策は続けていきましょう。

この寒い季節は換気が悩ましいところです。冬期では、室温 18℃以上かつ相対湿度 40%以上に維持しながら、温かい服装をしたうえで換気が推奨されています。インナーや腹巻きなどの工夫もされてみてください。

保健室では、第2次スクリーニングがようやく終わり、2学期の身体測定も行いました。自分の体と向き合う良い機会となったのではないのでしょうか。2学期中に結果を全て返却しますので、お子様の成長や体の具合をご確認ください。



（保健室）

心の健康（7）

今年も最後の月となりました。秋に名残を惜しみつつ冬を迎え、日暮れが早く、暗い時間が長くなりました。寒さが増し、体調を崩しやすくなっています。期末テストや成績に一喜一憂し、クリスマスや年末年始の行事の多忙さに心のバランスを崩しそうです。

良いこともあります。1つ1つの体験によって子どもの自主性が育っていくことを思うと、家庭生活の時間が長くなる冬は、親子で一緒に家事や行事を具体的にこなしていく中で、親の思いや生き方を子どもに伝えていく絶好のチャンスだとも言えます。親の姿勢に子どもはきっと家庭の中にホッとする暖かさを感じとるでしょう。そして家族と過ごしたロウソクの灯火（ともしび）のような暖かさを心の底に沈めて成長していくことでしょう。冬の家の中にはそういうチャンスがいっぱいです

（カウンセラー）

生徒の活躍

◇高校3年生は、これまでのPSを振り返り、6年間の学びの集大成として1学期末にPS卒業論文を作成しました。優秀作品の表彰を11月12日（金）のLHRで行いました。

最優秀賞 F. M（3-C）

優秀賞 I. F（3-A）M. E（3-A）S. S（3-D）

◇令和3年度広島市科学賞

教育長賞	3-5	N. S	「カイロの発熱を調整して酸素と結びつける速さを変える」
優秀賞	1-3	K. H	「カニの巣穴の形と耐性 -どんなどころにどんな形を掘るのか、なぜくずれないのか- 」(共同研究)
	3-1	K. A	「果物に流れる電流の大きさとクエン酸・金属の関係について」
	3-3	M. H	「猫の数についての認識」
	3-3	S. E	「布の濡れ色の研究」
	3-3	T. H	「凍らせたスポーツドリンクを溶かす時、溶かし始めから終わりまで同じ甘さで溶かすには」
	3-3	Y. H	「弁当箱の傾きを防ぐ方法」

◇中学放送部

第38回広島市中学総合文化祭 放送コンテストの部

総合順位 第2位

アナウンス部門 第2位 3-4 S. A

朗読部門 第5位 3-1 I. N

ラジオ番組制作部門 第4位 番組名「テレビの未来」

テレビ番組制作部門 第4位 番組名「パイプオルガン～受け継がれる想い～」

◇高校放送部

第32回広島県高等学校放送文化コンクール県大会

審査員奨励賞 2-D U. H

◇中高吹奏楽部

第59回中国吹奏楽まつり in さくらびあ

最優秀賞 広島市教育委員会賞



◇中学新体操部

広島市中学校新体操新人大会 団体1位

◇高校新体操部

広島県高等学校新体操新人大会 団体1位

メサイア演奏会の中止について

メサイアコンサートは、生徒・保護者の皆さまとクリスマスをお祝いする大切な行事です。しかしながら、昨年度から続くコロナ感染症対策のため、今年度も開催を中止といたしました。大変残念なお知らせですが、来年のクリスマスには、メサイア演奏会を実施できますように祈ります。



今月の聖句

土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る。

マルコによる福音書 4章 31～32 節

(キリスト教強調週間) 学年別活動で、新しく入学する中学1年生へ向けて聖書袋をラッピングした時、(聖書袋に添えるメッセージに) この聖句を選びました。入学してきたころには、キリスト教もよくわからず、これからの学校生活が不安な日々もあったけど、キリスト教を通して、これから生きていく上で大切なことを学んできたことに気づき、この聖句のように自分の中の枝が広がっているように思いました。

だから、来年の中1が6年たって聖句を送る側になった時、私のこの聖句を思い出して、私のように自分の成長に気づいてほしいという思いを込めてこの聖句をプレゼントすることにしました。……これからも人との出会いを大切に、今よりもっと私の中の枝を広げていきたいです。

(キリスト教強調週間閉会礼拝
高3代表生徒の感想より)

12月の行事予定

1	水	
2	木	期末テスト(高3) 1限8:55～
3	金	(高1・2) 1限8:55～
4	土	(中1・2・3)1限8:55～15分休憩
5	日	
6	月	1限8:55～15分休憩
7	火	1限8:55～15分休憩 女学院大学キャンパス見学会 高3自宅学習日
8	水	自宅学習日(中1～高2) 高3テスト返却 1限8:55～
9	木	テスト返却(中1～高2) 1限8:55～
10	金	高3特別時間割
11	土	高3駿台共通テストプレテスト
12	日	
13	月	特別時間割 1限8:55～ (高)健康教育 高3期末テスト素点確認
14	火	期末テスト素点確認(中1～高2)
15	水	高3自宅学習日 (中)讚美歌コンクール [NC]
16	木	
17	金	終業の日 クリスマス礼拝 面接・補習 女学院クリスマス
18	土	
19	日	
20	月	エンパワーメントプログラム
21	火	
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	クリスマス
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	特別休暇
30	木	
31	金	

NC・・・ノークラブデイ

※行事予定は変更になることがあります

